

## 岡山県民の森林と生活に関する意識

昨今の気候の厳しい変化は異常なのでしょうか？ 正常なのでしょうか？ 地球表面はおよそ7割が海、3割が陸地。その陸地の3分の1が森林。地球表面の約1割を森林が占めています。欧米先進国の森林率は約3割であるのに対し、日本の森林率は約7割。世界有数の森林国といわれていますが、わたしたちは『森林』とどのように共に暮らし、どのような意識を持っているのでしょうか？ 内閣府実施の「森林と生活に関する世論調査」を引用し、岡山県民の皆さんに聞いてみました。

### <結果ポイント>

#### 森林との付き合い方について

- 日常で森林で行いたいこと「散策やウォーキング」48.2%
- 休暇に森林で行いたいこと「のんびり」49.7%「リフレッシュ」46.7%
- 農山村に「定住してみたい」2.5%、「定住したくない」42.6%

普段は健康づくりの運動のために、休暇はのんびりリフレッシュのために、森林を利用したいとのこと。芸術鑑賞、ワーケーション、キャンプ、山菜取りといった回答も多く、私たちは森林でなんでも出来てしまうようです。

#### 森林に求めること

- 森林に期待する働き「山崩れや洪水などの災害を防止」62.1%、「水資源を蓄える」58.4%

私たちは多くの働きを森林に求めています。最も求めているのは災害防止。丸投げではなく私たちも協力しなければなりません。植樹や下草刈りなどの森林づくりのボランティア活動については、知人友人に誘われたり、近隣であれば参加したいと思う、といった回答が多く見られました。

#### 木材の利用について

- 木材の利用推奨派は89.6%
- 利用すべき理由は「林業や農山村地域の振興に貢献するため」37.6%
- 木材製品の購入時に意識するのは「児童労働や労働環境などの人権問題」18.5%
- 木造住宅を望む人は岡山64.8%、全国69.5%
- 木材を利用してほしい施設は「幼稚園・保育所・小・中学校など」69.4%、「駅、空港、バスターミナルなど」20.9%
- 木材を利用している施設を見ると「環境意識が高いと思う」38.0%

### 調査概要

調査手法 : WEB調査

調査対象 : (協)岡山情報文化研究所アンケートパネル『Vinsight(ピンサイト)』～岡山県在住者

調査期間 : 2024年5月16日(月)～2024年5月29日(月) 回答率 : 22.8%

集計サンプル数 : 481サンプル

回答者プロフィール : ◎男性42.2%、女性57.8%

◎10代20代5.8%、30代10.9%、40代21.5%、50代20.3%、60代以上41.5%

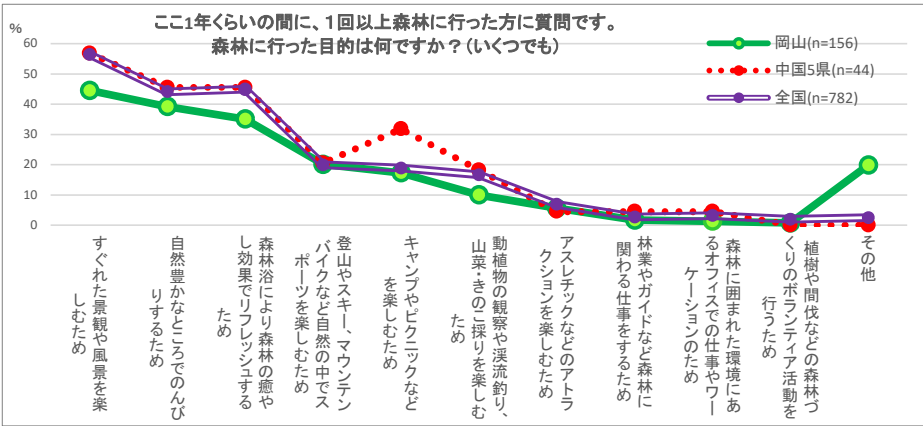
◎岡山市53.4%、倉敷市23.4%、その他の市町村23.2%

※国勢調査の性別・年齢分布値を参考にウェイトバックを行い、分析対象となるサンプルを補正。

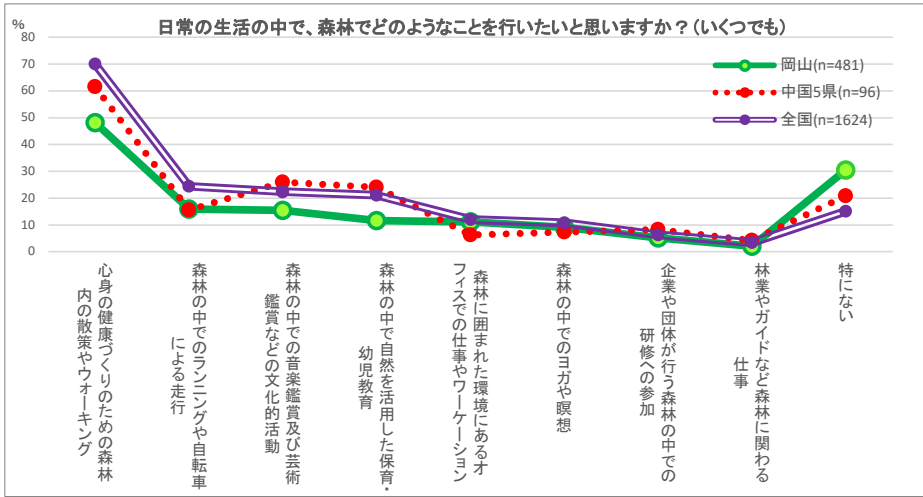
比較データ : 出典 内閣府「森林と生活に関する世論調査(令和5年10月調査)」

<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-sinrin/>

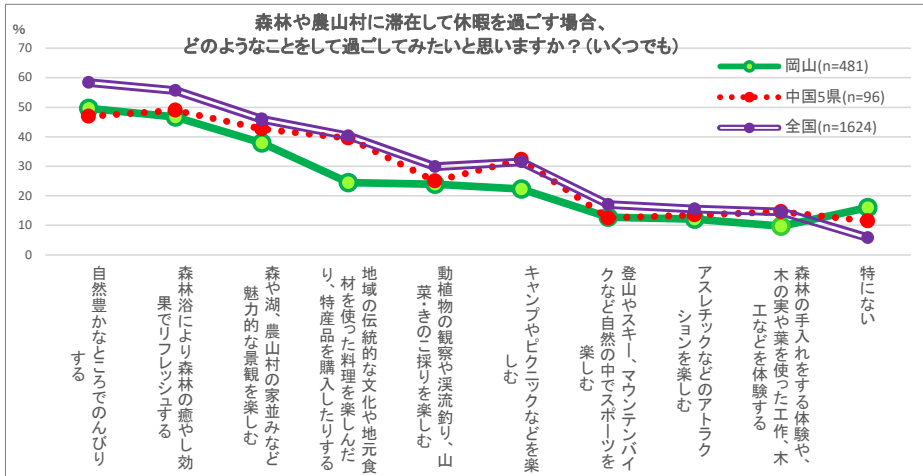
# I. 森林との付き合い方



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



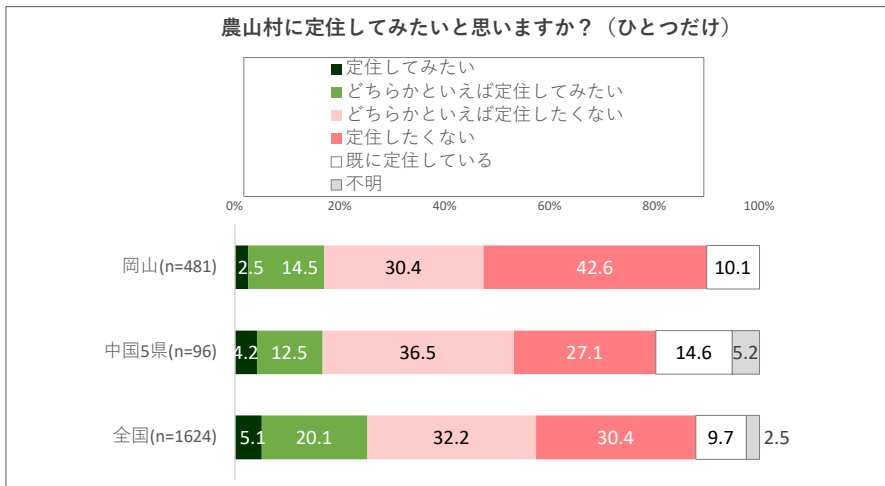
※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

森林に行く目的を聞いたところ、岡山も全国も上位3つは「すぐれた景観や風景を楽しむため」「自然豊かなところでのんびりするため」「森林浴により森林の癒やし効果でリフレッシュするため」となりました。ただ、岡山は全国や中国5県と比較すると10ポイント以上下回っており、山の種類や自生林の違いなどから、森林との付き合い方や醸成されているイメージが違っていることが推測されます。

普段の生活の中で森林で行いたいことは、岡山も全国も「心身の健康づくりのための森林内の散策やウォーキング」が突出して多い結果となりました。健康に対する関心の高さがうかがえます。健康づくりに山を活用しようという発想です。前出の結果同様、岡山の上位結果のポイントは全国を下回っており、また、「特にない」が30.5%と非常に多いなど、岡山県民の森林に対する特別視感とは異なるものはありません。

続いて、日常遣いではなく、『休暇』時に森林で行いたいことを聞いています。日常と非日常の区別をつける人の割合が影響しているのでしょうか、全体として全国のほうが意欲が高めです。森林の利用価値を見出しているのかわかりません。

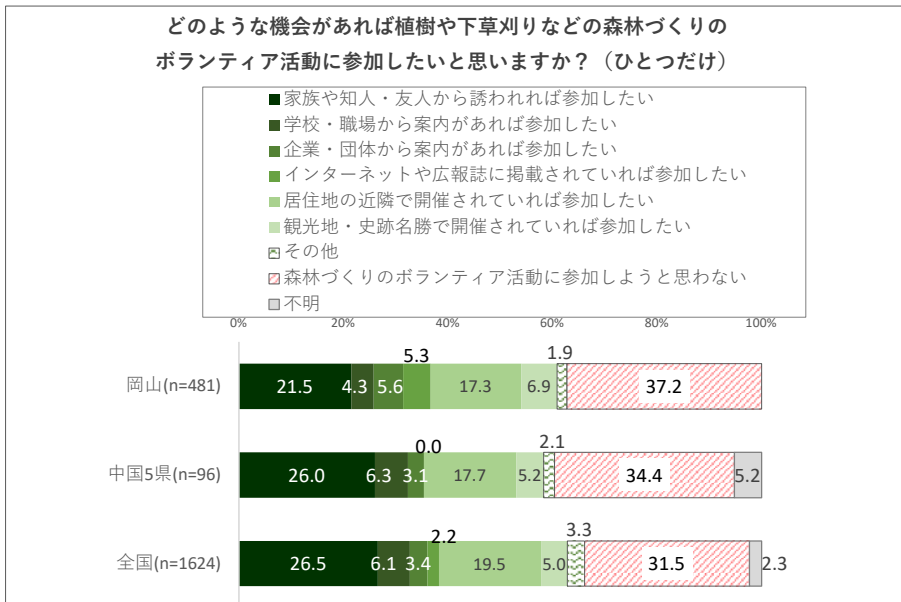
上位3つは岡山も全国も「自然豊かなところでのんびりする」「森林浴により森林の癒やし効果でリフレッシュする」「森や湖、農山村の家並みなど魅力的な景観を楽しむ」となっており、休暇においては「何もしないこと」を重視しています。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

定住意向について聞くと、全国も岡山も「定住したくない」という人が大変多い結果となりました。

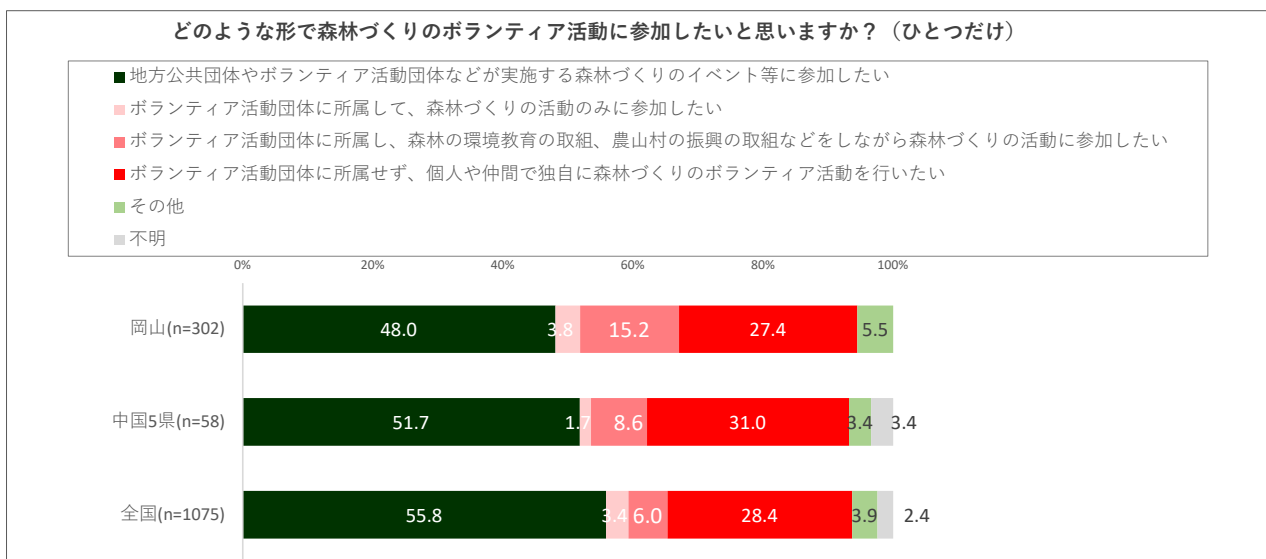
岡山は「どちらかといえば定住したくない」「定住したくない」を合わせた割合が73%を占めています。中でも「定住したくない」と明言している人は42.6%を占めるに至っています。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

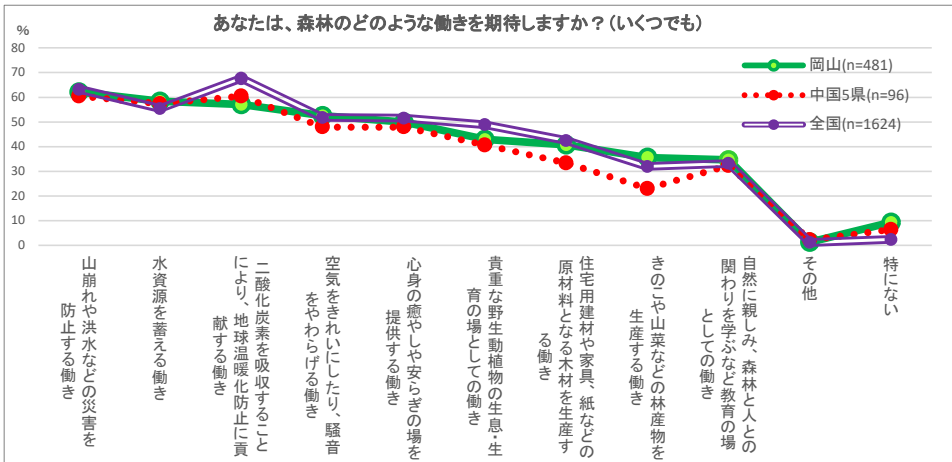
森林づくりのボランティア活動意向については、「誘われたら」「案内があったら」などの条件付き参加意向派が、岡山は60.9%、全国は62.7%となりました。

参加拒否派は、岡山は37.2%、全国は31.5%となっています。

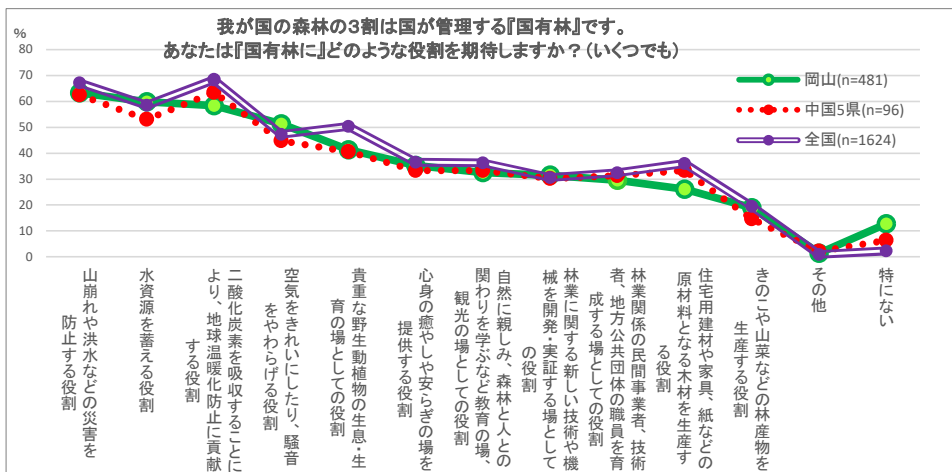


※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

## II. 森林に求めること



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

私たちは森林に多くの事を求めています。

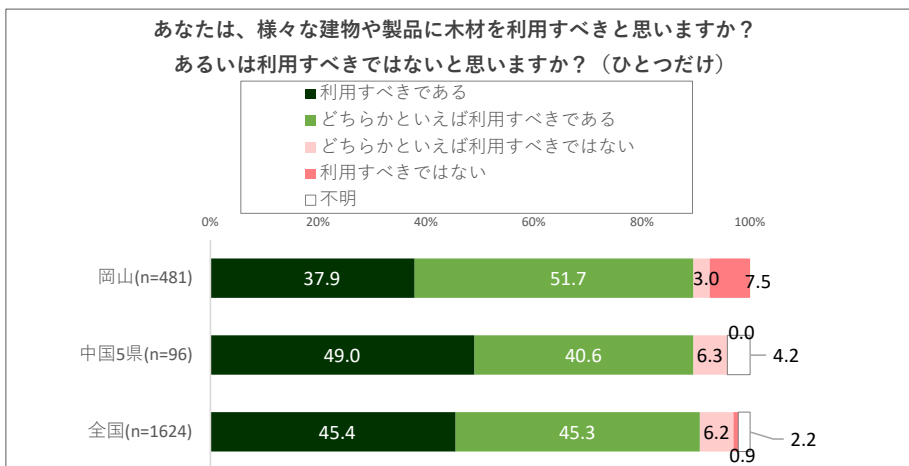
岡山でも全国でも多くの項目が50%超、40%超となっています。居住エリアによる差はあまり見られません。

岡山で最も求められたのは「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」、次いで「水資源を蓄える働き」「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」「空気をきれいにしたたり、騒音をやわらげる働き」などです。

対して、全国で最も求められたのは、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」で、メガトレンドである気候変動問題の解決が期待されています。

そして「特にない」との回答が最も多かったのは岡山でした。自然の強さをコントロールするつもりはない、国策に委ねる、といった考えを持っているなどが考えられます。

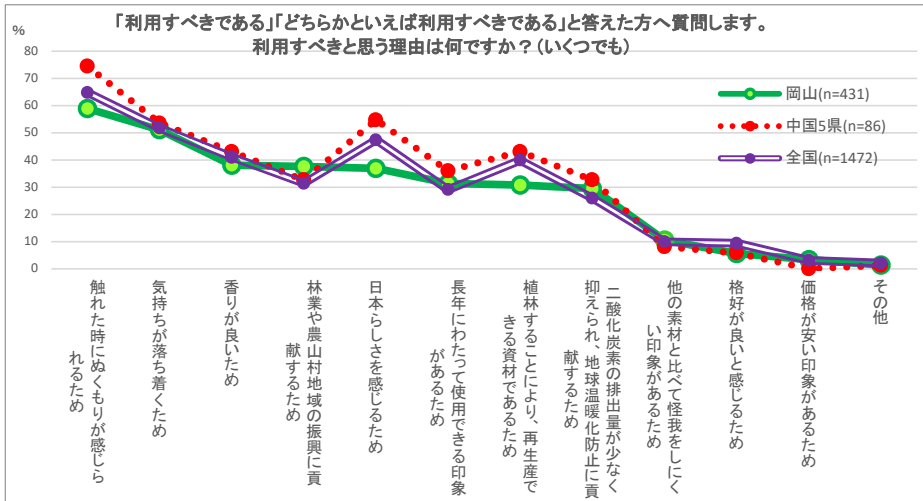
## III. 木材の"利用"について



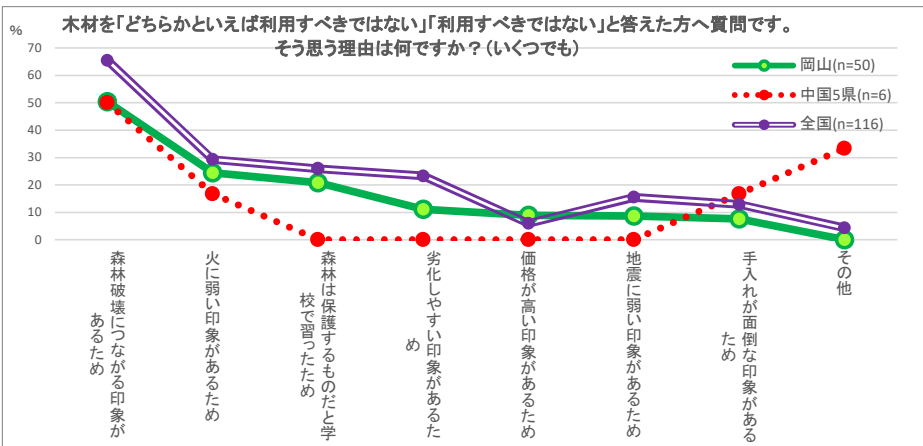
※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

木材の利用推奨意向について聞いたところ、「利用すべきである」「どちらかといえば利用すべきである」といった推奨派は、岡山は89.6%、全国は90.7%を占めました。

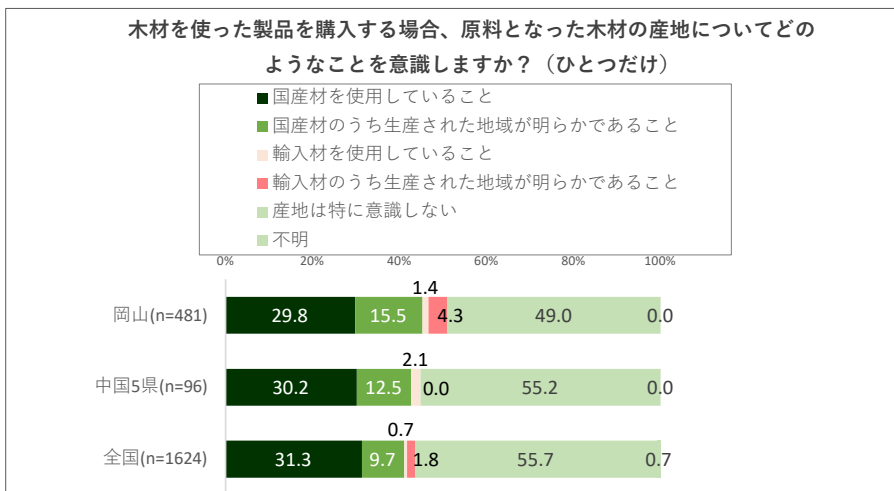
「利用すべきでない」とはっきりと回答する人が多いのは岡山です。年代別に見ると、20代や80代以上で割合が多くなっています。



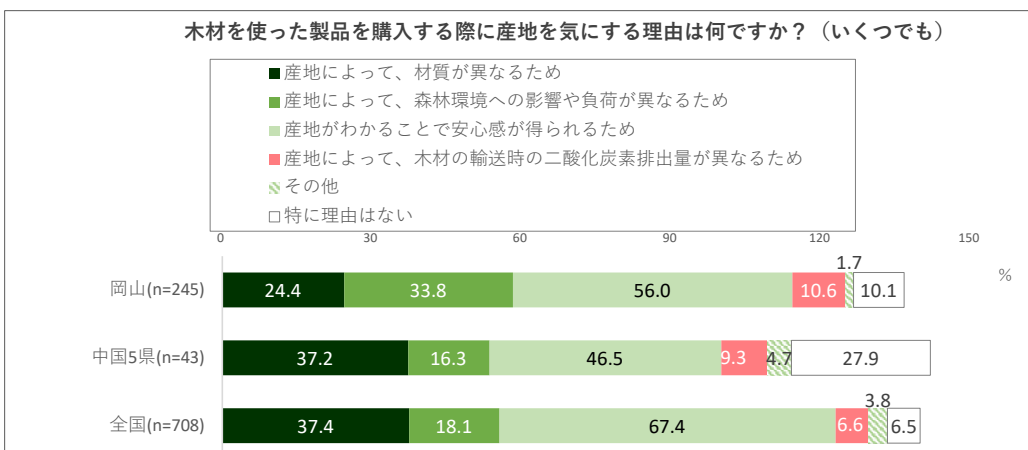
※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

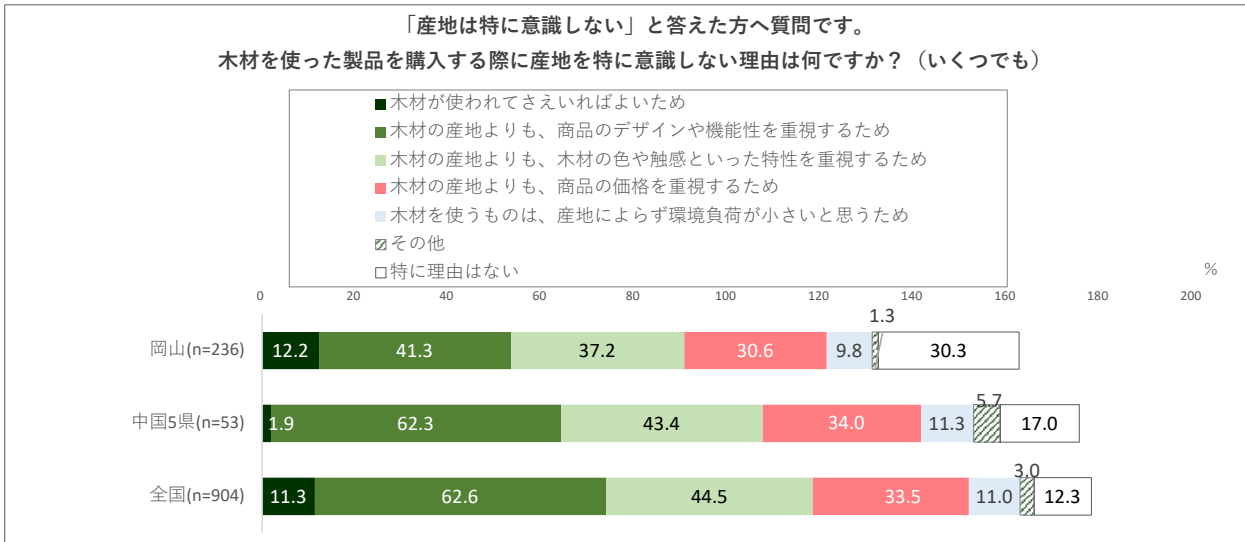
木材利用推奨派の人たちに理由を聞きました。岡山も全国も上位2つは50%超で「触れた時にぬくもりが感じられるため」「気持ちが落ち着くため」となっています。中国5県は1位は同じものの、2位が「日本らしさを感じるため」となっています。「日本らしさを感じるため」は最もエリア差が大きい項目となっています。

抑止派の人たちにも理由を聞いています。どのエリアでも「森林破壊につながる印象があるため」が最も多く、50%超となっています。他の質問結果に比べエリア差が比較的大きく出ており、岡山は全国に比べて木材への悪い印象は少なく、逆に「価格が高い印象があるため」という理由が全国よりも高いなど、「質」が良いものだから安易に手を付けてはいけないといった見方をしている可能性があります。

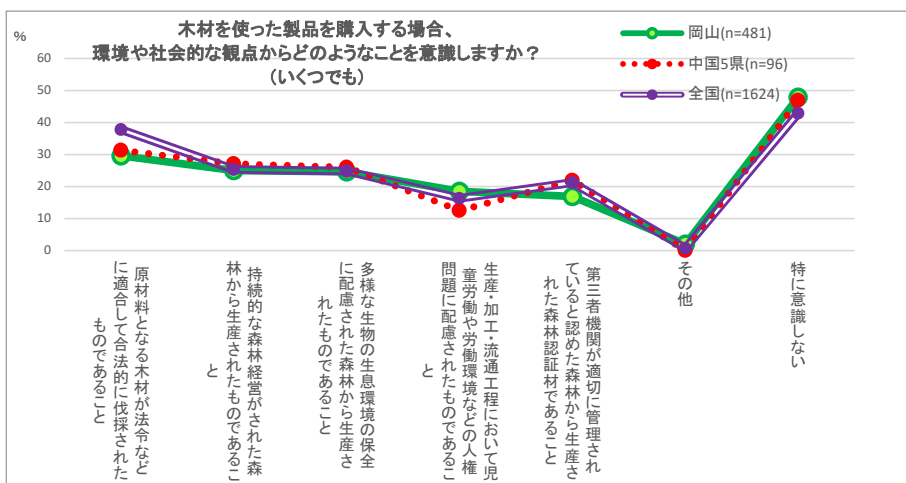
木材製品を購入する際に環境問題を考えて産地を気にしている人は、岡山は全国よりも7.5p多いという結果となっています。

産地を気にする理由は、材質や安心感といった「自分志向」ではなく、環境負荷や炭素排出量など「他者志向」の理由が全国や中国5県よりも多くなっています。





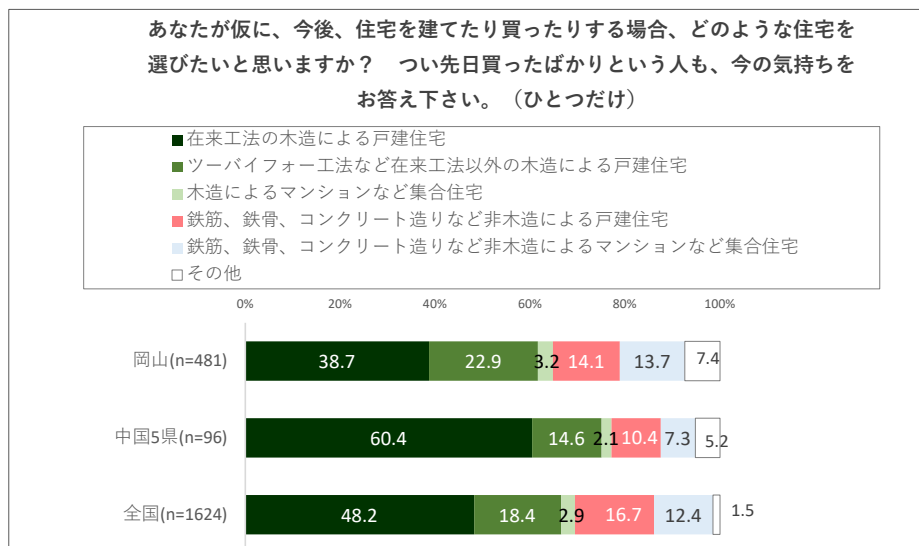
※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

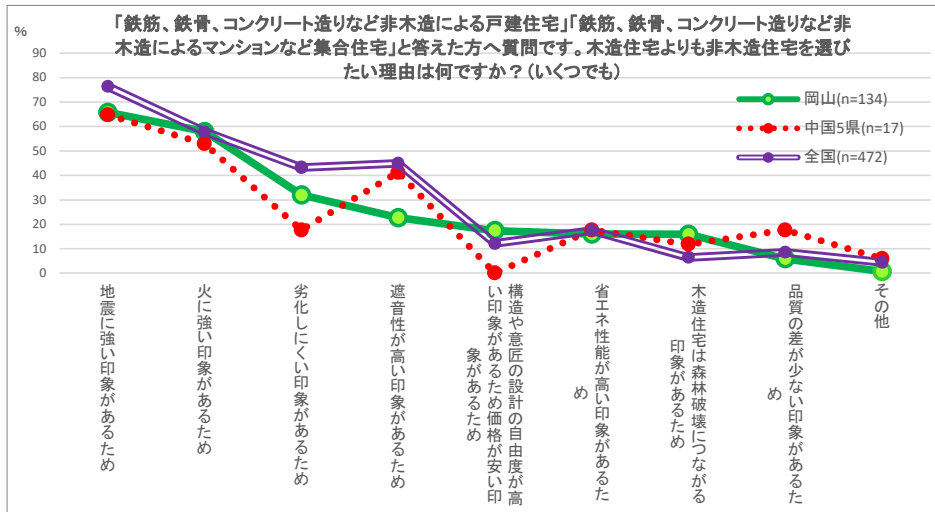
環境や社会的観点からの木材購入について、意識することを聞いています。どのエリアでも「原材料となる木材が法令などに適合して合法的に伐採されたものであること」と回答した人が最も多くなりました。中でも全国は37.8%と非常に高く、法令を重視する姿勢が強いようです。「生産・加工・流通工程において児童労働や労働環境などの人権問題に配慮されたものであること」については岡山が全国や中国5県よりも高く、特徴的です。

### Ⅲ-1. 木材の”利用”について～住宅



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じる場合があります。

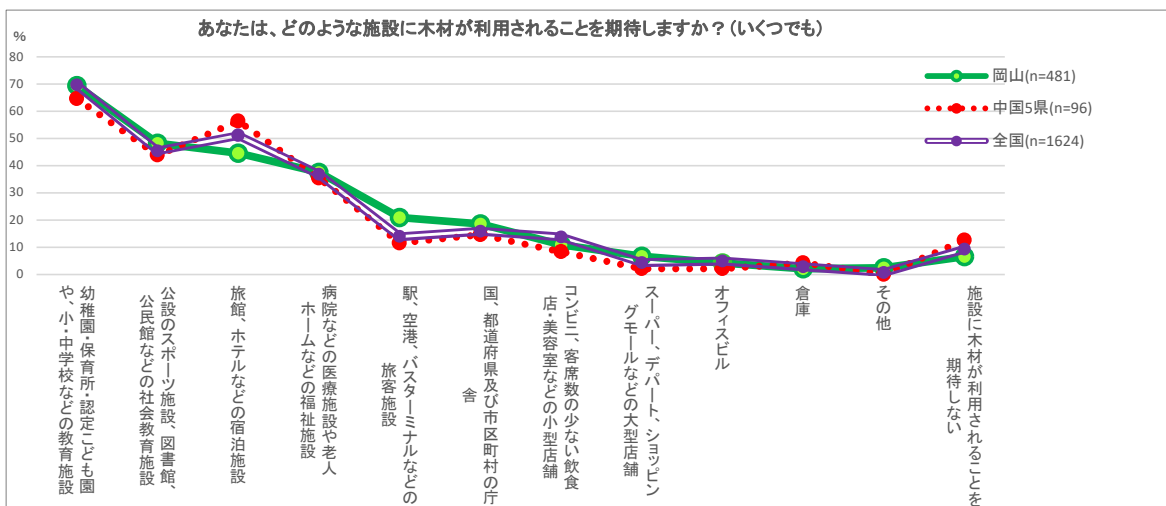
住宅について木造を望む人の割合は、岡山が64.8%、全国が69.5%、中国5県が77.1%となりました。



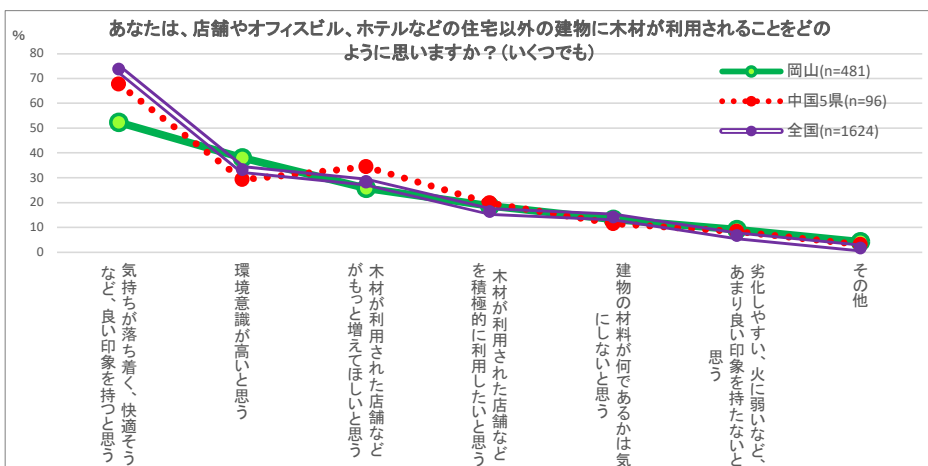
鉄筋、鉄骨、コンクリート造りなど非木造住宅を選んだ人にもその理由を質問しています。どのエリアも上位2つは「地震に強い印象があるため」「火に強い印象があるため」で、天災関連を重視しています。

※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

### Ⅲ-2. 木材の”利用”について～街づくり



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。



※グラフは(協)岡山情報文化研究所にて作成。

住宅以外に木材利用を期待する施設を聞いています。どのエリアも「幼稚園・保育所・認定こども園や、小・中学校などの教育施設」が最も高く、7割に上ります。エリア差が見られた項目が2つあり、「旅館、ホテルなどの宿泊施設」は岡山は最も低く、「駅、空港、バスターミナルなどの旅客施設

」は岡山が最も高いという結果になっています。頭に浮かんでいる施設のイメージが違うのかもしれませんが。木材が利用されている施設についてどう思うかを聞いたところ、最も多かったのは「気持ちが悪く、快適そうなど、良い印象を持つと思う」、次いで「環境意識が高いと思う」が続きました。